



暑さが増し、汗との闘いの大人に対し、子どもたちは元気いっぱい。毎日休み時間になると、運動場や中庭に出て遊ぶ子どもたちの声が響きます。新しい学年で、新しい人間関係になって3ヶ月。慣れてきた反面、ついつい自分を出しすぎて、友だちとのトラブルやいじめに発展しがちです。1学期も残り1か月弱。入学式や始業式でもお話した、「自分を大切に」「友だちも大切に」をもう一度思い出して、どうすればみんながイヤな思いをせずに楽しく毎日を過ごせるのか、その中でどうすれば自分らしさを出せるのか、を考えていきたいですね。

平和を考える

6月5日(木)6日(金)に6年生が広島方面へ修学旅行に行きました。

それに先立ち、6月2日(月)に広島より被爆体験伝承者の山口さんにご来校いただき、お話を聞きました。

80年前の8月6日、5年生だった山口さんのお父さんは集団疎開で広島から離れた北部の村へ疎開していたため、直接の被害は受けませんでした。しかし、5歳上のお姉さん以外すべての家族が亡くなり、半年後にはお姉さんも白血病で亡くなってしまいました。そのため「原爆孤児」として一人生活をしなくてはいけませんでした。就職や結婚で差別を受けながら、誰も知らない岡山で再出発を果たし、山口さんが生まれたそうです。当時の様子については、2009年になって初めて山口さんに話されたそうです。

山口さんは、原爆がなぜ広島に落とされたのか、原爆の威力やその被害、当時の人々の様子など、絵や写真をたくさん見せながら説明をしてくださいました。子どもたちは時に「そんなひどかったんや…」とため息とともに口にする以外は、声も出ない様子でした。

山口さんは講話の最後に、「私たち戦後生まれは、戦争責任はないが、戦争や核兵器のことを他の人につないでいく責任がある」とおっしゃいました。そのためわざわざ豊中市までお話をしに来てくださったのです。「6年生のみなさんもこれで伝承者ですよ。」ともおっしゃいました。修学旅行に行つて、さらに原爆のことや戦争のことを学び、それを家族や下級生に伝えていく責任がありますね。そのためにも、修学旅行を精一杯楽しみながらも、広島で何を感じ、何を伝えたいのかを考えながら2日間を過ごしてほしいと思いました。

講話の後も、個人的に質問したい人の列が長々とできていて、「動員学徒では、どんなことをしたのですか?」「原爆を落としたアメリカ人の罪はどうなったのですか?」「同じ人間なのに、なぜ人は戦争をするのですか?」と、素朴ながらも本質的な質問や疑問を山口さんにぶつけていました。



修学旅行で国際デビュー？

6月5日(木)6日(金)の2日間、6年生は広島方面へ修学旅行に行ってきました。まず初めに原爆ドームや爆心地を見ながら原爆の子像の前でセレモニーを行い、「ORIZURU」を歌いました。すると、なんとオーストラリア国営放送のスタッフが歌う様子を観ていて、「あまりにもきれいな歌声だったのでもう一度収録したい」との依頼がありました。残念ながらその後の碑めぐりの時間がおしていたため、泣く泣く諦めましたが、子どもたちの歌声はそれほど人々の心を揺さぶる素晴らしさでした。



その後、原爆ドームを始めとする数々の原爆にまつわる碑めぐりをしながら、担当の碑について下学年にわかりやすく説明するために「ピースレポート」の動画を撮影しました。

その後、平和資料館にて被爆体験伝承者の青木さんの講話を聴いたり、資料館の見学をしたりしました。

2日目は、竹原市にあるみろくの里でお土産を買ったあと、班ごとにアトラクションを楽しみました。当日はバス35台というたくさんの人たちが来場していましたが、子どもたちは上手に次々とアトラクションを訪れていました。

大きな体調不良者もケガもなく、無事元気に学校まで帰ってくる事ができました。



平和週間～全校で平和について考えました～

6月17日(火)から20日(金)まで、本校でも平和週間を設定し、全校で平和について考えました。パネル展示をして当時の様子を感じ取ったり、戦争関連のDVDを視聴したりする他に、6月17日(火)に6年生の修学旅行「行ってきました集会」を行い、撮影したピースレポートを全校に観てもらいました。全部で9か所の原爆関連の建造物を紹介してくれました。みんな真剣に静かに聞いていました。「これからは君たちが伝承者だよ。」という山口さんの思いが6年生を通して、1～5年生に伝わったのではないのでしょうか。

パネル展では、クラスごとに見回って広島と長崎の原爆について写真から学んだり、DVDを観て戦争の愚かさや平和の大切さについて学びました。

